



node hotel(ノードホテル)のバー横に
荒木経惟の写真。



昨年夏、京都市立美術館で開催
された杉本博司の個展風景。



暮らす旅舎の本「京のろおじ」
で紹介した京都国立博物館の
平成知新館。

暮らす旅 京都 アートな京都

文・写真／松岡伸吾(暮らす旅舎)



アートフェア会場の明治古都館前には野原邦彦の木彫作品が。

8年前、京都国立博物館に世界的な建築家、谷口吉生設計による平成知新館が誕生した。明治30年、帝國京都博物館本館として開館した現明治古都館は、迎賓館を手がけた片山東熊設計のバロック様式と日本の伝統を取り入れた建築だが、リニューアル後は免震改修などのため、展示には使われてこなかった。

しかし昨年末、「[at KYOTO2021]」で、アートフェア会場となり、久しぶりに入場できた。会場では、とても手の出る価格ではないが、四代田辺竹雲齋の繊細かつ大胆な竹工芸や、ギャラリー艸居の陶芸家三島喜美代の陶芸が目にとまった。特に、潰れた空き缶をモチーフにした陶器作品は80歳を超えるという年齢を感じさせないパワーや好奇心に溢れ、驚いた。

陶芸、漆芸、金工、染織など伝統工芸が盛んな京都だが、相国寺承天閣美術館のように個性的な美術館も充実している。岡崎には近代美術館と市立美術館があり、昨年夏の現代美術館、杉本博司の大規模な個展も人気を集めていた。また美術工芸の学校も東京に負けないほどあり、芸術を目指す者も多く、現代アートのギャラリーもかなりある。



客室の絵はカワイハルナ作。暮らす旅舎の
サイトは <http://kyoto.kurasutabi.jp>

新型コロナウイルスの影響で京都に行く機会は減ったものの、昨年末に訪れたnode hotelは、四条西洞院近くに立つ全25室の小さなホテル。一昨年7月にオープンしたアートホテルによりやく泊まることでできた。「アートコレクターの住まい」をコンセプトに、1階のロビーやレストラン、バーから洗面室、さらには全客室に、世界中のアートフェアやギャラリーで集めたアートが飾られている。客室はバストイレもゆったり、テレビがないことも特徴だ。その分音楽を聴いたり、写真集やアートもじっくり楽しめる。

まさに京都は美術の宝庫だ。ぜひ美術館やギャラリーのスケジュールをチェックして、アートを楽しんでほしい。